

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1314 2024/12/05 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照己)

「どうして、無料でサポートをしているんですか？」



不登校や発達障害などの子どもたちの学習支援や教育相談をしていると、ときどきこのように聞かれます。それには、2つ理由があります。その一つは、このような学習支援に対して誰もが受けられるように、もっと公的支援があるべきだと思っているからです。民間のフリースクールに通うと月に3~5万円くらいかかります。これでは、受けたくても受けられない家庭が多くあります。今実際にサポートをしている16歳の男の子の家庭は母子家庭で、子どもが3人いて大変です。一昨年の暮れに西区の生健会から相談があり、昨年の1月より学習支援をはじめました。場所は、生健会の事務所を使わせていただき、問題集も私が持っているものをコピーして使っています。

もう一つの理由は、教育の自由です。無料の代わりに、私が本当にやりたいことをさせてもらっています。独り善がりにならないように、だけど、自分を信じて・・・その子にとって何を、どのようにすすめていくのが一番いいのかを模索しながら。そのために、ときどき学習会などに参加して勉強したり意見交換などを行っています。

昨年の1月より学習支援している16歳の男の子のお母さんからときどき教育相談を受けていましたが、そのお母さんが、友だちのお母さんのお子さんが不登校傾向で相談したいという話がありました。知り合いなのでそれぞれの悩みをオープンにして、一緒に教育相談を受けていました。それを何回か続けていたら、そのお母さんが近所のお母さんの子どもさんも不登校傾向なので相談したいとのことでした。そこで、三人のお母さんたちと時々集まろうということになりました。今年の初め己斐公民館に相談して了解を得、不登校という名前は入れないで、「子育てについて考える会」として立ち上げ、全額免除で公民館を利用できるようになりました。ひと月に1回程度集まっては、ざっくばらんに話し合っています。一月には、かつて自分の子が不登校で、今、小学校のふれあい教室で教えておられる現職の先生に来ていただいて、学校への対応への悩みなどを中心に話し合う予定です。そして、今後は広島でも不登校の問題について考えるネットワークづくりができれば考えています。

※上の写真は、3月の終わりころ私が無料で借りている畑で、不登校傾向や発達障害ある子どもたちとその友達たちも参加して、いっしょに芋を植えているところです。(望月 照己)

▼品性という言葉で、わたしが一番に思い起こすのは、山田洋次監督の「映画をつくる」の中で、述べた内容です▼「・・・自分が観たい映画を作る。それで品性が保てるのです。映画は、見世物じゃない。心の糧、慰め、勇気を得るものだから。」▼最後の三つの内容のうち「慰め」は20歳そこそこの若造にはピンときませんでした。しかし、映画館から出てきたとき、「ああ明日は、もうちよつと、元気に生きてみようか」と感じてもらうには、心を豊かにする、がんばれのエールを送るだけでは満たされない、人たちが居ることに心を配ることに、ようやく気づいた私です▼寄り添って一緒に涙するという事で、自分の気持ちに慰められ、少し前を向くきもちになる。そんな細やかな配慮や、心遣いを蹴散らし、罵倒し、踏みつける。ネット世界に広がる荒涼とした言葉に浸かりつ放しで居ると、いつしか優しさや労り、そして、慰めなどとは無縁な、暴力で金を奪う事への抵抗感も無くなってしまふのでしょうか▼戦後民主主義の再生と同様、品性や思いやりは、ゆっくりじゅっくりと取り組んだ教育活動の中でのみ育つことを再確認したいものです。